

イプシロンロケットの今後

(Mロケットの世界からイプシロンの世界への転換)

現状イプシロン

固体システムによる衛星打ち上げの空白期間を最短にするため既存ステージによる妥協的構成

今後の打ち上げ需要と持続的維持発展の状況

年1機を宇宙科学, ASHRO・アジア対応・地球観測

+ さらに小型Market の創出……………年2機以上を目標とすべき?

運用簡素化・即応性の追求

打ち上げシステムの研究・開発・製造・運用能力の維持

望ましい発展形態

マーケット開拓・キャプチャのための一定の能力増(第一段の更新が必須)

技術革新による低コスト化・固体ロケット関連研究体制との連動

将来の輸送システムに向けた展開とR&Dの考え方

- 大幅コストダウンによる新たな輸送需要の創出
有人輸送に向けた取り組み
地上とLEO輸送・往復の再使用化
弾道飛行のビジネス
衛星打ち上げの輸送需要から「21世紀的輸送需要」への転換
- ゴール設定の合意必要
- 推進の是非の合意形成必要
- 費用対効果の大きい技術獲得プログラム
- 民間による活動と国の投資の差別化・支援の方法
- 現行・実用輸送系での実行？／実用とは別の世界でのR&D実行？